

テーマ1.

過活動膀胱（overactive bladder syndrome: OAB）

OABという用語は1997年に開催された会議で Paul Abrams と Alan Wein が用意した造語で1999年に定義が決まり、2002年に国際尿禁制学会(International Continence Society)において、この定義が採択され、OABという用語が一般化した。

その目的は、症状から OAB を診断することで、患者の検査による身体的・経済的負担を軽減し、迅速に初期治療を受けられるようにすることであった。

定義： **ココ大切**

過活動膀胱とは、**尿切迫感を必須とした症状症候群**であり、通常は頻尿と夜間頻尿を伴い、切迫性尿失禁は必須ではない。

また、その診断のためには**局所的な病態を除外する必要**がある。

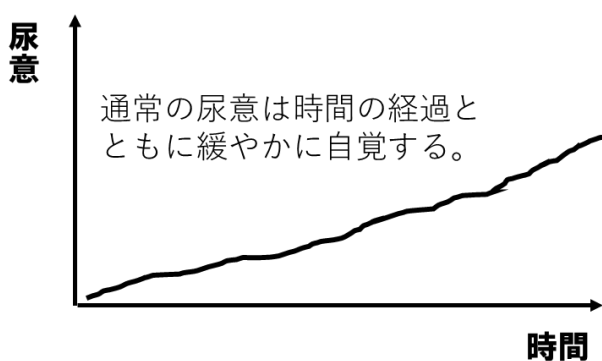
(ポイント) **「尿意切迫感がなければ”過活動膀胱“ではない**ことに注意。

つまり、尿意切迫感が無い、ただ「トイレに近い」、「尿が漏れる」、「夜間頻尿で困る」は過活動膀胱ではない。

※**尿意切迫感**とは？

「突然起こる、我慢できないような強い尿意であり通常の尿意との相違の説明できるもの」

「水を触ると急に尿意が起きて尿が漏れる」「歯磨きをしていると急に尿意が起きる」「慌ててトイレに駆け込んでドアノブを握った瞬間尿が漏れる」などが典型的な尿意切迫感の症状。



通常の尿意とOABの尿意の違い
(イメージ図)

ちなみに...

※**症候群 (Syndrome: シンドローム)**とは？

「様々な症状の組み合わせであるが、それだけでは正確な診断にならない。明確な原因が同定できない機能